# TOPICS

## ラムリー大臣が不満表明
## 日本の対加自動車輸出で

カナダのラムリー国務大臣（通商担当）が三月十五日から四日間、日本を訪問、安倍通産相など日本政府の関係閣僚および財界首脳と日加貿易について話し合った。

ラムリー大臣は、日本側との一連の会談の中で、カナダ自動車産業が困難な状況にあることを訴え、①日本からのカナダ向け乗用車の輸出削減、②商用車輸出の自粛、および③カナダ向け日本車におけるカナダ製部品の組み込みに関する話し合いの開始――を要請した。

しかし、提案は三つとも日本側に拒否された。

ラムリー大臣は、帰国前に開かれた在日カナダ商議所主催の昼食会で、「日本のカナダ向け自動車および自動車部品の輸出額が年間十五億ドルに達しているのに対し、カナダの対日自動車部品輸出額がわずか八百万ドルというのでは、カナダはもはや我慢できない――そのことを日本側に納得してもらえなかったのは遺憾だ。カナダの国内市場が落ち込んでいるときに、日本製の乗用車とトラックのシェアはそれぞれ一九七九年の八パーセントおよび三パーセントから、一九八一年には二三パーセント、一二パーセントへと上昇した。カナダ国内市場に対する重大な影響について、日本側に感じとってもらえなくて残念」と、不満を述べている。

（新聞報道によると、通産省は四月三日、今年度（四月―来年三月）のカナダ向け乗用車輸出を昨年度と同じ十七万四千台とする方針を決めたという。）

通産省に安倍大臣を訪れたラムリー大臣。

大臣はさらに、林産品の対日輸出拡大について、特にプレーナー仕上げのSPF材（スプルース、パイン、ファー）に対する一〇パーセントの関税を撤廃するよう要請したが、何の進展も得られなかったという。もうひとつカナダ側が要請していた針葉樹合板の件は、日本農林規格（JAS）が今夏から適用される見込みで、これによりカナダの針葉樹合板が日本の住宅建築に使用できることになる。

そのほか、ラムリー大臣は牛肉や豆類、イカに関する輸入割り当ての撤廃を求めたが、これについても満足できる回答は得られなかった。

ラムリー、安倍両大臣はまた、第三国におけるプロジェクトで協力していくため、カナダ輸出開発公社と通産省が共同保険取決めの締結に合意したことを確認するとともに、通産省が三月末から二週間の日程でカナダへ投資環境調査団を派遣すると発表した。

## カナダ政府、坪井氏に功労賞
## ツーバイフォー建築の普及で

日本ツーバイフォー建築協会の坪井東会長（三井ホーム社長）に、日本における枠組壁工法（ツーバイフォー工法）の普及に大きく貢献したとして、カナダ政府から功労賞が贈られた。

日本で建設省の告示改正によってツーバイフォー工法が認可されたのは一九七四年だが、坪井氏とツーバイフォー建築協会は、それ以前から日加住宅委員会や日加経済人会議などを通じて同工法に関する啓蒙を図り、認可後はその普及に熱を入れてきた。坪井氏はさらに日本の住宅業界のカナダ視察訪問、カナダの住宅業界との技術交流や協力関係の促進を奨励し、またツーバイフォー建築協会はブリティッシュ・コロンビア州林産審議会と日本でツーバイフォー工法に関するセミナーを開催したり、三十以上の都市でモデルハウスを建てるなど、それぞれツーバイフォー建築の普及に努力してきた。

こうした努力が実り、昨年の日本におけるツーバイフォー住宅着工件数は、およそ一万五千戸に達した。

なお、授賞式は三月十九日に行われ、訪日中のラムリー大臣が坪井氏にヘムロック材製の楯と賞状を手渡した。

## 日本ハム社長に輸出功労賞

日本ハムの大社義規社長が、このほどカナダ政府から「カナダ産品輸出功労賞」を受賞した。

同賞は、カナダ産品の輸出に功績のあった人に贈られるもので、授賞式は首都オタワで行われた。

## スズキ博士にフレミング賞
## 科学知識の普及に功績

カナダの公営放送網CBCの有名な科学番組The Nature of Things の司会者として、また世界的な遺伝学者として名高いデビッド・スズキ博士（写真）に、このほどロイヤル・カナディアン・インスティチュートから第一回サンフォード・フレミング賞が贈られた。「国民の間に科学に対する知識と理解を深めた高い功績」が、授賞の理由。

NFB

スズキ博士は、CBCの科学番組で名解説者・司会者として知られているが、最近はカナダのロック・ミュージシャンを使って宇宙に関する子供向けレコードも作っている。

ロイヤル・カナディアン・インスティテュートは、百三十三年前に創設された機関で、科学技術の発展について人々の理解を深めるための講演などを主催する。サンフォード・フレミングは、標準時の提案者として知られている。

## カナダ、国際食品展に初参加
## 三十四社が出展、好評を呼ぶ

カナダ政府は、三月十五―十九日の五日間、東京・晴海で開かれた国際食品展に初めて参加し、海外参加十七か国のうち、とりわけ大きな評判を呼んだ。

日本は年間十五億ドルのカナダ産食品を輸入しており、カナダにとって世界でも二番目に大きい市